



Solaris 7 ご使用にあたって (Intel 版)

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303
U.S.A. 650-960-1300

Part No: 805-4234-10
1998 年 11 月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。日本サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、SunSoft、SunDocs、SunExpress、OpenWindows、SunOS、AnswerBook2、Java、HotJava、Solstice AutoClient、DiskSuite、JumpStart、SunLink、Ultra、XGL は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、日本サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1998 All Rights Reserved.)

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

ATOK7 は株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK7 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

ATOK8 は株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(Copyright (c) 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、日本サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 7 (Intel Platform Edition) Release Notes

Part No: 805-5768-10

Revision A

© 1998 by Sun Microsystems, Inc.



目次

はじめに vii

1. Solaris 7 の構成 1

製品の種類と出荷形態 1

「Solaris 7 デスクトップ製品」および「Solaris 7 サーバー製品」の構成 1

Solaris 7 Software CD (Intel 版) 2

Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスク 2

Solaris 7 Documentation CD (日本語版) 3

Solaris 7 Documentation CD 4

Netscape Communicator 4.05 CD (日本語版) 5

Solaris 7 インストールの手引き 5

Solaris 7 ご使用にあたって (Intel 版) (本書) 6

Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版) 6

Solaris 7 (Intel Platform Edition) Hardware Compatibility List 7

Solaris 7 デバイスの構成 (Intel 版) 7

日本語入力用図形文字コード表 8

Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書) 8

Binary Code License (Terms & Conditions) 8

2. インストールにあたって 9

カスタマサポートへの連絡	10
必要なメモリー	10
必要なスワップ領域	10
必要なディスク容量	11
Solaris 7 Software CD のソフトウェア容量	11
Solaris 7 Documentation CD のソフトウェア容量	12
日本語環境のインストール方法	15
デフォルトロケールの設定	15
インストール言語の設定	16
オンラインリリース情報	17
参照方法	18
インストール方法	19
3. インストールに関する注意事項とバグ情報	21
Solaris 7 インストールの注意事項とバグ情報	21
Solaris Web Start 1.0 インストールに関する注意事項とバグ情報	22
対話式インストールに関する注意事項とバグ情報	23
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	25
ハードウェアに関するバグ情報	28
Solaris 7 インストールの注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)	28
Solaris Web Start 1.0 インストールに関する注意事項とバグ情報	28
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	31
インストール全般に関する注意事項とバグ情報	32
4. 実行時の注意事項とバグ情報	39
Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報	39
Solaris CDE に関する注意事項とバグ情報	40
セキュリティに関するバグ情報	41
AnswerBook2 に関するバグ情報	42
c 以外のロケールに関するバグ情報	42

	ハードウェアに関するバグ情報	45
	Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)	46
	Solaris CDE に関するバグ情報	46
	日本語 OpenWindows に関するバグ情報	46
	日本語ロケール・日本語入力に関する注意事項とバグ情報	47
	Solaris 外字ツール (sdtudctool) に関するバグ情報	49
	AnswerBook2 使用時の注意事項	51
	Netscape Communicator 4.05 に関する注意事項とバグ情報	52
5.	機能に関する情報	53
	Solaris の名称変更	53
	通貨「ユーロ」のサポート	54
	アラビア語およびヘブライ語のサポート	54
	3.3V のサポート	55
6.	製品中止情報	57
	Solaris に含まれなくなる予定のソフトウェア	57
	HotJava ブラウザ	57
7.	マニュアルに関する情報	59
	マニュアル中のバグ情報	59
	Solaris 7 サーバー上で SunOS 4.x をサポートするための SUNWhinst	59
	ユーロ通貨のサポート	59
	x86 システム用のドライバ	60
	SunOS 5.7 のマニュアルページ ncrs (7D)	60
	Solaris 7 リファレンスマニュアル (AnswerBook2) のリンク	61

はじめに

本書『Solaris 7 ご使用にあたって (Intel 版)』は、Solaris™ 7をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルで、今回のリリースに関する最新情報が記述されています。

本書では、Solaris 7オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報、リリース直前に明らかになった情報や問題点を中心に説明します。

Solaris 7のリリースに関するマニュアルとして、本書の他に『Solaris 7 オンラインリリース情報』がオンラインのテキスト形式で提供されています。『Solaris 7 オンラインリリース情報』については、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

注 - 本書の第3章は、『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `installation_bugs` ファイル中の内容を、追加または修正した情報です。

また、本書の内容をさらに更新した最新の『Solaris 7 ご使用にあたって (Intel 版)』が、後日 <http://docs.sun.com> に提供される予定です。

注 - 今回の Solaris リリースの名称は「Solaris 7」ですが、コード、パス名、パッケージパス名などで、「Solaris 2.7」または「SunOS 5.7」という名称が使用されていることがあります。コード、パス、パッケージパスなどを実際に入力または使用するときには、必ずマニュアル中に記述されている名称に従ってください。

対象読者

本書は、Solaris 7 ソフトウェアをインストールして使用する方を対象としています。Solaris についての知識を持つ方、現在習得中の方を対象としています。

内容の紹介

本書は、次のように構成されています。

第 1 章「Solaris 7 の構成」では、Solaris 7 に含まれるデスクトップ用とサーバー用の CD やマニュアルの構成について説明します。

第 2 章「インストールにあたって」では、Solaris 7 をインストールするために必要なメモリーおよびディスクの容量、日本語環境のインストールについての概要などを説明します。この章の内容を理解してから、インストールを開始してください。

第 3 章「インストールに関する注意事項とバグ情報」では、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `installation_bugs` ファイルの内容を修正および追加した、インストールに関する注意事項とバグの情報を説明します。この章の内容を理解してから、インストールを開始してください。

第 4 章「実行時の注意事項とバグ情報」は、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `runtime_bugs` ファイルを作成後に明らかになった、実行時の注意事項とバグの情報について説明します。

第 5 章「機能に関する情報」では、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「新規機能の概要」、または Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `new_features` ファイルを作成後に明らかになった、機能に関する情報が記載されています。

第 6 章「製品の中止情報」では、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `eof` ファイルを作成後に明らかになった、サポートを終了するソフトウェアの機能またはハードウェアについて説明します。

第 7 章「マニュアルに関する情報」では、Solaris 7 のマニュアルを作成後に明らかになったマニュアル中のバグおよび注意事項について説明します。

ドライバ更新情報およびパッチ情報は、本書には含まれていません。Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』をご覧ください。詳細は、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

Solaris の他に付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項およびバグ情報を確認してください。

関連マニュアル

Solaris をインストールするには、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- 『Solaris 7 オンラインリリース情報』
- 『Solaris 7 インストールの手引き』
- 『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』
- 『Solaris 7 デバイスの構成 (Intel 版)』
- 『Solaris 7 (Intel Platform Edition) Hardware Compatibility List』

ハードウェア構成によっては、インストールを行うために別途作業が必要になることがあります。ハードウェア固有の作業が必要な場合は、各ハードウェアのメーカーからインストール手順を補足する資料が提供されています。それらの資料も利用して、インストールを行なってください。

マニュアルの注文方法

SunDocs™ プログラムでは、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) の 250 冊以上のマニュアルを扱っています。このプログラムを利用して、マニュアルのセットまたは個々のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、SunExpress™ の Web ページ <http://www.sun.com/sunexpress> にあるカタログセクションを参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、またはコード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 続く

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、または強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を越える場合、バックスラッシュは継続を示します。	<pre>sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</pre>

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

■ スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[]は省略可能な項目を示します。上記の場合、*filename* は省略してもよいことを示します。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。



注意 - この記号が付いている注意事項に従わない場合は、データ、システム、関連機器などの損傷を起こす可能性があります。

一般規則

- 「x86」という用語は、一般に Intel 8086 ファミリに属するマイクロプロセッサを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium Xeon、Celeron の各プロセッサ、および AMD、Cyrix、Xeon が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。このマニュアルでは、このプラットフォームのアーキテクチャ全体を指すときに「x86」という用語を使用し、製品名では「Intel 版」という表記で統一しています。

Solaris 7 の構成

この章では、今回のリリースに含まれている CD および印刷マニュアルについて説明します。

製品の種類と出荷形態

Solaris 7 は、「Solaris 7 デスクトップ製品」と「Solaris 7 サーバー製品」の 2 つの製品構成で提供されます。

「Solaris 7 デスクトップ製品」および「Solaris 7 サーバー製品」の構成

「Solaris 7 デスクトップ製品」および「Solaris 7 サーバー製品」の構成について、概要を説明します。

Solaris 7 Software CD (Intel 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。他のどの CD よりも先にインストールしてください。

■ Solaris 7 オペレーティング環境

SunOS™、Solaris 共通デスクトップ環境 (以降、Solaris CDE と表記します)、OpenWindows™ ソフトウェア、日本語入力システム (Wnn6、ATOK8、cs00) などが含まれます。

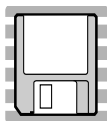
インストールするには：まず初めに、本書に書かれている既知の問題について確認してください。次に、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「インストールの手順」を参照してください。

■ Solaris 7 オンラインリリース情報

インストールに関する注意事項とバグ情報、実行時のバグ情報、最新情報、パッチ情報、ドライバ更新情報、サポートされなくなった製品の情報を、オンラインのテキストファイルで提供します。

参照するには：17ページの「オンラインリリース情報」をご覧ください。

Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスク



この構成用補助フロッピーディスクは、x86 システムまたは Pentium プロセッサを搭載したシステムのブートに使用します。

インストールするには：『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「インストールの手順」を参照してください。

Solaris 7 Documentation CD (日本語版)



この CD には、AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと、日本語のオンライン文書コレクションおよびいくつかの英語のオンライン文書コレクション (日本語に翻訳されていない文書を含むもの) が含まれています。

以下は、この CD に含まれているオンライン文書コレクションの一覧です。

[日本語のコレクション]

- Solaris 7 インストール Collection (AB2)
- Solaris 7 ユーザー Collection (AB2)
- Solaris 7 システム管理 Collection (AB2)
- Solaris 7 ソフトウェア開発 Collection (AB2)
- Solaris 7 リファレンスマニュアル Collection (AB2)
- Solaris 共通デスクトップ環境 1.3 ソフトウェア開発 Collection (AB2)
- OpenBoot Collection (AB2)

[英語のコレクション]

- Solaris 7 Installation Collection (AB2)
- Solaris 7 Software Developer Collection (AB2)
- Solaris 7 Reference Manual Collection (AB2)
- KCMS Collection (AB2)
- Solaris XGL 3.3 AnswerBook (AB1)

注 - AnswerBook (AB1) と AnswerBook2 (AB2) は次の形式のデータを指します。

- 「AnswerBook1」: Solaris 2.6 より前の Solaris で使用されていた形式の AnswerBook のデータ
- 「AnswerBook2」: Solaris 2.6 から新しく導入された SGML 形式の AnswerBook のデータ

参照方法など AnswerBook についての詳細は、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「オンライン文書へのアクセス」を参照してください。

インストールするには: この CD に含まれる README_ja.html をお読みください。

Solaris 7 Documentation CD



この CD には、AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと、英語およびヨーロッパ言語のすべての AnswerBook オンライン文書コレクションが含まれています。Solaris 7 Documentation CD (日本語版) に含まれていない英語のオンライン文書コレクション (*印が付いているもの) を参照したい場合にご利用ください。

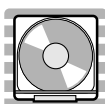
以下は、英語のオンライン文書コレクションの一覧です (ヨーロッパ言語のオンライン文書コレクションは、ここでは省略しています)。

- Solaris 7 Installation Collection (AB2)
- Solaris 7 User Collection (AB2) *
- Solaris 7 System Administration Collection (AB2) *
- Solaris 7 Software Developer Collection (AB2)
- Solaris 7 Reference Manual Collection (AB2)
- Solaris Common Desktop Environment Developer Collection (AB2) *
- OpenBoot Collection (AB2) *
- KCMS™ Collection (AB2)
- Solaris XGL™ 3.3 AnswerBook (AB1)

インストールするには : この CD に含まれる README_en.html をお読みください。

注 - この CD に含まれている Solaris Web Start 2.0 (installer) を使用し、カスタムインストールで上記の文書コレクションだけを選択してインストールしてください。なお、この CD は Solaris Web Start 1.0 を使用して Solaris 7 ソフトウェアと同時にインストールすることはできないので、インストールするために必要なディスク容量を別に確保しておく必要があります。

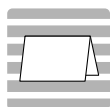
Netscape Communicator 4.05 CD (日本語版)



この CD には、日本語版の Netscape Communicator 4.05 が含まれています。Solaris Web Start 1.0 によって、デフォルトで Solaris 7 ソフトウェアと同時にインストールされます。

インストールするには : この CD に含まれる readme_ja.txt をお読みください。

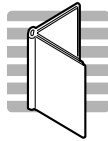
Solaris 7 インストールの手引き



インストールを始めるにあたって参照するカードです。従来の対話式インストールを行うか、または Solaris Web Start 1.0 インストールを行うかを選択し、それぞれを使用してインストールを行う手順が説明してあります。また、マニュアルの注文方法および Web ブラウザでの参照方法についても説明しています。

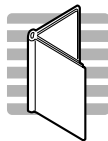
インストールに際しては、本書の第 2 章および第 3 章も必ずお読みください。

Solaris 7 ご使用にあたって (Intel 版) (本書)



インストールに関するバグ情報や注意事項を中心に説明しています。また、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』を作成後に明らかになった、バグ情報、最新情報、サポートを中止する予定の製品の情報などを提供します。

Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)

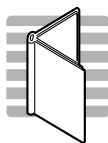


Solaris 7 ソフトウェアのより高度なインストール (以前の Solaris リリースからのアップグレードなど) を行うために必要となる情報を提供します。次の章で構成されています。

- 「インストールの手順」
- 「新規機能一覧」
- 「新規機能の概要」
- 「Solaris Web Start の使い方」
- 「既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存」
- 「システムのアップグレード」
- 「インストール時の問題解決」
- 「インストール後のソフトウェアの追加と削除」

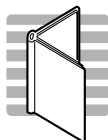
- 「オンライン文書へのアクセス」
- 「CUI インストールの日本語訳」

Solaris 7 (Intel Platform Edition) Hardware Compatibility List



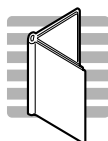
Solaris 7 でサポートされる一般的な x86 ハードウェアについて、要件、周辺機器、システムプラットフォームの情報を提供します。

Solaris 7 デバイスの構成 (Intel 版)



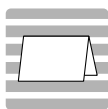
Intel 版 Solaris 7 の Device Configuration Assistant (構成用補助) ソフトウェア、メーカーのデバイス構成媒体およびマニュアル、デバイス参照情報ページを使用して、x86 デバイス上で Solaris オペレーティング環境が動作するようにシステムを構成したり、構成時の問題を解決したりする方法について説明しています。

日本語入力用図形文字コード表



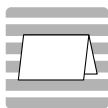
Solaris 7 オペレーティング環境で日本語入力システムを使用して図形文字を入力するための、コードと図形文字の対応、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケール利用時の注意事項を説明しています。

Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)



ソフトウェア使用の許諾に関する記述が含まれています。

Binary Code License (Terms & Conditions)



上記の「ソフトウェア使用許諾契約書」に対する補足条項が含まれています。

インストールにあたって

この章では、Solaris 7 をインストールするために必要なメモリーおよびディスクの容量、日本語環境のインストールについて説明します。また、本書を作成前の情報が書かれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』のインストール方法および参照方法についても説明します。

注 - 本章の内容を理解してからインストールを開始してください。この章に記載されている情報は、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の installation_bugs ファイルの内容よりも優先されます。オンラインリリース情報については、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

以下に、Solaris 7 で提供されるインストール方法を簡単に説明します。

従来の対話式インストール	Solaris ソフトウェアだけをインストールする。 (Solaris 7 Software CD に含まれている)
Solaris Web Start 1.0	Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれる別ソフトウェアを一度に容易にインストールできる。 (Solaris 7 Software CD に含まれている)
Solaris Web Start 2.0 (installer)	Solaris がインストールされた環境に、同梱の CD に含まれる別ソフトウェアを共通のユーザーインタフェースで容易にインストールできる。 (同梱の CD に含まれている)

カスタマサポートへの連絡

サポートに関連する問題については、ご購入先にお問い合わせください。また、Sun についての情報は、以下の Web ページをご覧ください。

- <http://access1.sun.com>
- <http://www.sun.com>
- <http://www.sun.co.jp> (日本サン・マイクロシステムズ株式会社)

必要なメモリー

32M バイト以上の物理メモリーが必要です。Solaris CDE や OpenWindows などの日本語デスクトップ環境を使用する場合には、64M バイト以上確保することをお勧めします。

また、Solaris Web Start 1.0 によるインストールを日本語表示で行うには、最小 64M バイトの物理メモリーが必要です。詳細は、28ページの「システムの最小要件」を参照してください。

必要なスワップ領域

スワップ領域は、実メモリーとの合計が少なくとも 64M バイトになるように確保することを推奨します。さらに、日本語デスクトップ環境を使用する場合には、実メモリーとの合計が 128M バイト以上になるように確保してください。

注 - 物理メモリーが 64M バイト未満のシステムに、従来の対話式インストールでファイルシステムの自動配置を行なった場合に確保されるスワップ領域は、上記の要件を満たしていません。この場合は、手動でサイズを変更してください。

必要なディスク容量

今回のリリースで標準提供される Solaris 7 Software CD、Solaris 7 Documentation CD、Netscape Communicator 4.05 CD をインストールするのに必要なディスク容量について説明します。

上記のソフトウェアをシステムにインストールするには、インストールするソフトウェアとディスクの構成によってファイルシステムを構築する必要があります。

Solaris Web Start 1.0 (Solaris 7 Software CD に含まれている) を使うと、Solaris オペレーティングシステムおよび同梱の別ソフトウェアをインストールするためのファイルシステムが自動的に配置され、これらの CD を一度に容易にインストールすることができます。

一方、従来の対話式インストール¹では、Solaris オペレーティングシステムだけをインストールするように設計されているので、同梱のソフトウェア容量も考慮したファイルシステムの自動配置を行うことはできません。

同梱のソフトウェアもインストールする場合には、それらのソフトウェア容量を考慮してファイルシステムを手動で構成する必要があります。そして、Solaris オペレーティングシステムのインストール終了後に、同梱の CD に含まれている Solaris Web Start 2.0 (installer) または、各ソフトウェアのインストール手順に従って、同梱のソフトウェアをインストールしてください。

なお、Solaris Easy Access Server 2.0 をご利用になる場合、含まれている各製品のソフトウェア容量については、『Solaris Easy Access Server 2.0 インストールライブラリ』を参照してください。

Solaris 7 Software CD のソフトウェア容量

次の表は、Solaris 7 オペレーティングシステム (日本語版) だけをインストールするために必要なディスク容量を、インストールするロケール別に示しています。記載されている値は、必要な容量の推奨値 (カッコ内は最小値) です。また、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。

なお、従来の対話式インストールで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値で、インストールするシステムのディスクやメモリーのサイズによって異なります。

1. システムが Solaris Web Start 1.0 を実行するための要件を満たしていない場合、またはアップグレードや細かいインストール設定を行いたい場合などには、従来の対話式インストールを行う必要があります。

表 2-1 Solaris 7 Software CD のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	必要な容量の概算推奨値 (カッコ内は最小値)			
	ja(EUC) のみ	PCK のみ	UTF-8 のみ	全部
全体ディストリビューション	802 (684)	802 (684)	810 (684)	849 (723)
/	48 (40)	48 (40)	48 (40)	48 (40)
/usr	738 (628)	738 (628)	746 (628)	785 (667)
/opt	16 (16)	16 (16)	16 (16)	16 (16)
開発者システムサポート	739 (629)	739 (629)	747 (637)	794 (668)
/	40 (40)	40 (40)	40 (40)	48 (40)
/usr	683 (581)	683 (581)	691 (589)	730 (620)
/opt	16 (8)	16 (8)	16 (8)	16 (8)
エンドユーザーシステムサ ポート	441 (370)	441 (370)	449 (378)	464 (393)
/	40 (32)	40 (32)	40 (32)	40 (32)
/usr	385 (330)	385 (330)	393 (338)	408 (353)
/opt	16 (8)	16 (8)	16 (8)	16 (8)

Solaris 7 Documentation CD のソフトウェア容量

Solaris 7 では、日本語版、英語版の 2 種類の Documentation CD が提供されます。

日本語版の Documentation CD には、日本語の AnswerBook パッケージおよび一部の英語の AnswerBook パッケージ (日本語に翻訳されていない文書コレクションを含むもの) が含まれており、すべての日本語ロケールで共通なパッケージとなっています (3ページの「Solaris 7 Documentation CD (日本語版)」を参照してください)。

英語版の Documentation CD には、英語およびヨーロッパ言語のすべての AnswerBook パッケージが含まれています (4ページの「Solaris 7 Documentation CD」を参照してください)。

次の表に、日本語版の Documentation CD に含まれているパッケージとその容量を示します。これらのパッケージは、/opt にインストールされます。

表 2-2 Solaris 7 Documentation CD (日本語版) のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	形式	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
[日本語]			
SUNWjinab	AB2	Solaris 7 インストール Collection	18
SUNWjabe	AB2	Solaris 7 ユーザー Collection	53
SUNWjaadm	AB2	Solaris 7 システム管理 Collection	61
SUNWjabsd	AB2	Solaris 7 ソフトウェア開発 Collection	28
SUNWjdad	AB2	Solaris 共通デスクトップ環境 1.3 開発 Collection	20
SUNWamaja	AB2	Solaris 7 リファレンスマニュアル Collection	40
SUNWjopen	AB2	OpenBoot Collection	7
[英語]			
SUNWinab	AB2	Solaris 7 Installation Collection	3
SUNWabsdk	AB2	Solaris 7 Software Developer Collection	16
SUNWaman	AB2	Solaris 7 Reference Manual Collection	87
SUNWakcs	AB2	KCMS AnswerBook	2
SUNWaxg	AB1	Solaris XGL 3.3 AnswerBook	28

次の表に、英語版の Documentation CD に含まれているパッケージとその容量を示します²。これらのパッケージは、/opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 7 Documentation CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	形式	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
[英語]			
SUNWinab	AB2	Solaris 7 Installation Collection	3
SUNWabe	AB2	Solaris 7 User Collection	16

2. この表では、ヨーロッパ言語のパッケージは省略しています。

表 2-3 Solaris 7 Documentation CD のソフトウェア容量 (単位: M バイト) 続く

パッケージ	形式	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
SUNWadm	AB2	Solaris 7 System Administration Collection	20
SUNWabsdk	AB2	Solaris 7 Software Developer Collection	16
SUNWdtad	AB2	Solaris Common Desktop Environment 1.3 Developer Collection	9
SUNWaman	AB2	Solaris 7 Reference Manual Collection	87
SUNWopen	AB2	OpenBoot Collection	2
SUNWakcs	AB2	KCMS AnswerBook	2
SUNWaxg	AB1	Solaris XGL 3.3 AnswerBook	28

次の表に、AnswerBook2 文書サーバー (以降「文書サーバー」とします) を構成するパッケージ SUNWab2r、SUNWab2s、SUNWab2u をインストールするのに必要な容量を示します。文書サーバーについての詳細は、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「オンライン文書へのアクセス」および Solaris 7 Documentation CD (日本語版) に含まれる README_ja.html を参照してください。

表 2-4 文書サーバーのソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ディレクトリ	必要な容量の概算値
/	1.3
/usr	30

次の表に、Netscape Communicator 4.05 をインストールするのに必要な容量を示します。

表 2-5 Netscape Communicator 4.05 のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ディレクトリ	必要な容量の概算値
/opt	16

日本語環境のインストール方法

この節では、Solaris 7 を日本語環境でインストールするための方法を説明します。日本語環境でインストールするには、大きく分けて「デフォルトロケールの設定」と「インストール言語の設定」の2つの設定が必要です。それ以外のインストール手順は英語版の Solaris と同じです。『Solaris 7 インストールの手引き』に書かれているインストール手順に従ってください。

なお Solaris 7 では、文字エンコーディングが異なる次の3つの日本語ロケールがサポートされています。

- 従来の EUC 環境をサポートする ja ロケール
- Solaris 2.6 から PCK 環境をサポートする ja_JP.PCK ロケール
- Solaris 7 で新たに追加された UTF-8 環境をサポートする ja_JP.UTF-8 ロケール

デフォルトロケールの設定

インストール後のシステムのデフォルトロケールを設定します (具体的に、`/etc/default/init` ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合、システムのデフォルトロケールとして必ず日本語ロケールが設定されている必要はありませんが、設定されていることを推奨します。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定をユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済みます。また、`dtlogin` の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

- GUI (グラフィカル・ユーザーインタフェース) インストールの場合

最初に「Select Language and Locale」画面 (以降「ロケール設定画面」とします) が表示され、ここでデフォルトロケールを設定します。日本語環境でインストールするには、「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」、または「Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)」を選択してください。どれを選択するかわからない場合は、「Japanese EUC (ja)」を選択してください。

ここでの設定は、以後起動されるインストール画面の表示言語も決定します。

- CUI (キャラクタ・ユーザーインタフェース) インストールの場合

インストール中にシステムのデフォルトロケールを設定することはできません。また、インストール画面も英語による表示だけです。³

システムのデフォルトロケールをインストール後に設定、または変更する場合には、`/etc/default/init` ファイルでの `LANG` 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

ja ロケールに設定	<code>LANG=ja</code>
ja_JP.PCK ロケールに設定	<code>LANG=ja_JP.PCK</code>
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	<code>LANG=ja_JP.UTF-8</code>
C ロケールに設定	<code>LANG=C</code> または、 <code>LANG=</code> の行を削除

また、インストール前にこのデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておくと、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されないため、たとえばカスタム JumpStart™ による自動インストールのように意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合などに有効です。⁴

インストール言語の設定

言語 (ロケール) に依存するソフトウェアパッケージ (JFP パッケージ) のインストールを決定します。日本語環境をインストールするには、必ず JFP パッケージをインストールする必要があります。JFP パッケージについての詳細は、『Solaris 7 オンラインリリース情報』の「Solaris 7 パッケージ情報」(package ファイル) を参照してください。

Solaris 7 では、ja ロケール環境、ja_JP.PCK ロケール環境、ja_JP.UTF-8 ロケール環境、そしてそれらの任意の混在環境をインストールすることが可能です。

■ 従来の対話式インストールの場合

「言語の選択 (Select Languages)」画面でインストールする日本語ロケールを選択します。この画面では、あらかじめ選択されたデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。

たとえば、ja と ja_JP.PCK の両ロケール環境をインストールするには、ja と ja_JP.PCK の両方を選択します。

■ Solaris Web Start 1.0 インストールの場合

3. グラフィカルモニターを装備していないシステムの場合は、自動的に CUI インストールが起動します。また、「Bypass Configuration」を選択して明示的に周辺デバイスの設定を省略した場合にも、CUI インストールになります。

4. デフォルトロケールの事前設定を行うには、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」または「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳しくは、『Solaris のインストール (上級編)』を参照してください。

従来の対話式インストールと同様の方法で、Solaris ソフトウェアおよびインストールする同梱ソフトウェアの各々に対して、日本語ロケールを指定します。なお、日本語化されている製品はそのサポートロケールが表示されており、あらかじめ選択されたデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。

- カスタム JumpStart インストールの場合

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに `locale` キーワードを追加します。⁵

`ja` と `ja_JP.PCK` の両ロケール環境をインストールする場合のプロファイルの例を次に示します。

キーワード	値
<code>install_type</code>	<code>initial_install</code>
<code>system_type</code>	<code>standalone</code>
<code>partitioning</code>	<code>default</code>
<code>cluster</code>	<code>SUNWCuser</code>
<code>locale</code>	<code>ja</code>
<code>locale</code>	<code>ja_JP.PCK</code>

なお、このようにプロファイル中で `locale` キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、そのロケール環境が自動的にインストールされます。ただし、複数の日本語ロケール環境をインストールするには、プロファイルで指定する必要があります。

オンラインリリース情報

Solaris 7 Software CD には、『Solaris 7 オンラインリリース情報』がテキスト形式で提供されています。本書は、インストールに関連する情報に加えて、『Solaris 7 オンラインリリース情報』を作成後に明らかになった情報を元に作成されているため、適宜、本書と共に以下のオンラインリリース情報を参照してください。

- インストールの情報と注意事項を提供する `installation_bugs` ファイル

5. `locale` キーワードは、JFP パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。

注 - 本書の第3章「インストールに関する注意事項とバグ情報」は、`installation_bugs` ファイルの内容よりも優先されます。

- 実行時のバグ情報と注意事項を提供する `runtime_bugs` ファイル
- 機能についての情報を提供する `new_features` ファイル
- パッチ情報を提供する `patches` ファイル
- パッケージ情報を提供する `package` ファイル
- 製品の中止情報を提供する `eof` ファイル
- ドライバ更新情報を提供する `driverupdate` ファイル

参照方法

テキストエディタや `vi` エディタなどを利用して各ファイルを参照することができます。インストール前などに Solaris 7 Software CD から直接参照するには、次のディレクトリにアクセスして各ファイルを参照してください。

```
/cdrom/ja_sol_7_x86/s2/Solaris_2.7/Docs/release_info/<locale>
```

Solaris CDE 環境では、フロントパネルにあるアプリケーションマネージャのアイコンを選択し、「インフォメーション」を選択することによって参照できます。各ファイルは、以下のディレクトリの下に配置されています。

- Solaris 7 全般の情報 - ASCII テキスト (C ロケールの場合)

```
/usr/share/release_info/Solaris_2.7/C/
```

- Solaris 7 全般の情報と日本語環境固有の情報 - EUC テキスト (ja ロケールの場合)

```
/usr/share/release_info/Solaris_2.7/ja/
```

- Solaris 7 全般の情報と日本語環境固有の情報 - PCK テキスト (ja_JP.PCK ロケールの場合)

```
/usr/share/release_info/Solaris_2.7/ja_JP.PCK/
```

- Solaris 7 全般の情報と日本語環境固有の情報 - UTF-8 テキスト (ja_JP.UTF-8 ロケールの場合)

```
/usr/share/release_info/Solaris_2.7/ja_JP.UTF-8/
```

インストール方法

Solaris 7 オンラインリリース情報は、次のパッケージに含まれています。

- SUNWrdm : On-Line Open Issues ReadMe (英語テキスト)
- SUNWjrdm : Japanese (EUC) On-Line Open Issues ReadMe (EUC テキスト)
- SUNWjprdm : Japanese (PCK) On-Line Open Issues ReadMe (PCK テキスト)
- SUNWjurdm : Japanese (UTF-8) On-Line Open Issues ReadMe (UTF-8 テキスト)

注 - SUNWjrdm、SUNWjprdm、SUNWjurdm は、それぞれコードエンコーディングが
違うだけで、記述されている内容は同じです。

「エンドユーザシステムサポート」以上のソフトウェアグループ(クラスタ)でインストールすると、英語版の SUNWrdm パッケージ、およびインストール言語として選択したロケールに依存する日本語パッケージが自動的にインストールされます。

「コアシステムサポート」でインストールする場合には、Solaris インストール時に「ソフトウェアのカスタマイズ」画面で、「On-Line Open Issues ReadMe (SUNWrdm)」パッケージを明示的に追加選択してインストールしてください。

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `installation_bugs` ファイルを作成後に明らかになった、インストールに関する最新情報や既知の問題について説明します。

Solaris 全般に関する (ロケールに共通な) 情報と、日本語環境に固有の情報とを分けて説明しています。21ページの「Solairs 7 インストールの注意事項とバグ情報」には、Solaris 7 全般に関する情報が記載されています。28ページの「Solaris 7 インストールの注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)」には、日本語環境に固有の情報のみが記載されています。

注 - 本章の内容を理解してからインストールを開始してください。この章に記載されている情報は、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `installation_bugs` ファイルの内容よりも優先されます。オンラインリリース情報については、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

Solairs 7 インストールの注意事項とバグ情報

この節では、主に次の情報について説明します。

- Solaris Web Start 1.0 インストールに関する情報
- 対話式インストールに関する情報
- アップグレードに関する情報

- ハードウェアに関する情報

Solaris Web Start 1.0 インストールに関する注意事項とバグ情報

この節では、Solaris Web Start 1.0 を使用してインストールを行う場合に発生する問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris 対話式インストールプログラムを使用する場合には発生しません。

Solaris Web Start 1.0 についての詳細は、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「Solaris Web Start の使い方」を参照してください。

ルートパーティションを移動できない (バグ ID: 4046659)

Solaris Web Start 1.0 ではシステムディスクを選択できますが、その後にルートパーティションをシステムディスクから移動できません。

回避方法: ルートパーティションをシステムディスクから移動する必要がある場合は、Solaris Web Start 1.0 ではなく Solaris 対話式インストールプログラムを使用してください。

製品がすべての予約領域を使用しない (バグ ID: 4059182)

Solaris Web Start 1.0 は、インストールするすべての製品に必要な合計ディスク容量に基づいてディスク容量を確保します。インストール後、製品を使用する前にディスク容量の割り当てをチェックすると、かなりの容量が未使用であるように見えます。この容量の一部は未使用のままになる場合もありますが、一部はソフトウェアを実行するときに使用されます。

回避方法: Solaris Web Start 1.0 が必要とする容量よりも少ないディスク容量を割り当てたい場合は、Solaris Web Start 1.0 ではなく Solaris 対話式インストールプログラムを使用してください。

ルート (/) パーティションが HBA シリンダ 1023 を超えて配置される (バグ ID:4062008)

Solaris Web Start 1.0 で IDE システム上にファイルシステムを手動で配置すると、インストールプログラムの起動後、エラーメッセージが表示される場合があります。これは、ルート (/) パーティションに割り当てられた領域が大きすぎるためです。

回避方法 : Solaris Web Start 1.0 を再起動し、自動ファイルシステム配置を使用してください。

対話式インストールに関する注意事項とバグ情報

この節では、対話式インストールに関連する問題について説明します。

Solaris dtlogin 画面

システムを初めて起動すると、どのデスクトップを使用するかにかかわらず、デフォルトでログイン画面が表示されます。使用するデスクトップを、そのログイン画面で選択することができます。またログイン画面では、ユーザー名とパスワードを入力します。ユーザー名とパスワードが認証されると、デスクトップが表示されます。ログイン画面についての詳細は、dtlogin のマニュアルページ (Solaris CDE マニュアルページに含まれている) または『Solaris 共通デスクトップ環境 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』を参照してください。

dtlogin に関するシステム管理者向けの注意事項

Solaris CDE システムを運用するシステム管理者は、Solaris CDE の GUI によるログインプログラム (dtlogin) に関する知識を持っている必要があります。『Solaris 共通デスクトップ環境 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』または dtlogin および dtconfig のマニュアルページを参照してください。

ファイルシステムのマウントでエラーが発生してインストールが失敗する (バグ ID:4164303)

次のメッセージが表示されます。

```
The Solaris operating environment on slice c0t0d0s0 cannot be upgraded.  
A file system listed in the file system table (vfstab) could not be mounted.
```

ルート (/) の i ノード用にストライプされた DiskSuite™ メタデバイスに格納されている i ノードに、インストールプログラムが割り込み、そのメタデバイスをアップグレード可能なスライスとしてマウントしようとしたと考えられます。この問題が発生した場合は、マウントが失敗してインストールが異常終了します。

リブート後に **TotalNET Advanced Server (SunLink)** ドライバでパニックが発生する (バグ ID:4121961)

次のような警告メッセージが表示されます。

```
Warning: mod_install: MT-unsafe driver 'tnatp' rejected panic[cpu0] /  
thread=7051e040:mutex-enter:bad_mutex lp=1046aa20 owner=7051e040 thread=7051e040
```

ドライバの衝突が発生するため、Solaris 7 オペレーティング環境では TotalNET Advanced Server (SunLink™) をバージョン 5.2 へアップグレードする必要があります。TotalNET Advanced Server 5.0 および 5.1 では、Solaris 7 オペレーティング環境が正常にブートしません。

回避方法 : Solaris 7 オペレーティング環境をインストールする前に、インストールされている TotalNET Advanced Server のすべての構成要素をバージョン 5.2 にアップグレードする必要があります。TotalNET Advanced Server 5.2 は、Solaris Easy Access Server 2.0 CD から入手することができます。アップグレード方法については、添付のマニュアルを参照してください。

インストールの進捗を示すスケール表示が不正確 (バグ ID:1266156)

Solaris ソフトウェアのインストール中であるにもかかわらず、「Solaris ソフトウェアのインストール - 実行中」で表示されるスケールが、インストールが完了したことを示す場合があります。スケールがインストール完了を示した後も、インストールプログラムがパッケージを追加していることがあります。インストールが完了したかどうかを、スケール表示で判断しないでください。すべてのインストール処理が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
インストールが完了しました
```

JumpStart が間違ったデフォルトのブートディスクにインストールする (バグ ID: 4027156)

JumpStart が、現在のデフォルトのブートディスクにインストールしないことがあります。この場合、現在のバージョンではなく、既存のバージョンの Solaris オペレーティング環境がリブートされます。この問題は、2つのハードディスクドライ

ブを持つ SPARCstation™ 5 上で完全な自動インストールを行なった場合に発生することが確認されています。

回避方法 : JumpStart を使用しないで Solaris オペレーティング環境をインストールしてください。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

この節では、アップグレード時にのみ発生する問題について説明します。



注意 - x86 システムを Solaris 7 オペレーティング環境にアップグレードする前に、必ずバグ ID:4121281 に関する説明をお読みください。

DiskSuite でデータが失われる可能性がある (バグ ID:4121281)

DiskSuite を使用しているシステムを Solaris 7 にアップグレードする場合、DiskSuite をバージョン 4.2 にアップグレードする必要があります。DiskSuite 4.2 には、metadb 複製の削除および交換を自動的に行う metacvt というスクリプトが含まれています。このスクリプトを使用して、metadb 複製に格納されている SCSI ドライバ名を cmdk から sd に変更できます。

回避方法 : Solaris 7 オペレーティング環境へのアップグレード中にデータを損失しないようにするには、DiskSuite が動作している x86 システムのアップグレードを開始する前に、メタデバイス構成をテキストファイルに保存し、metadb 複製を削除してください。x86 システムのアップグレード後に、DiskSuite のコマンド行インタフェースを使用してメタデバイス構成を復元してください。

『Solstice DiskSuite 4.2 ご使用にあたって』には、metadb 構成の保存、metadb 複製の削除、x86 システムの Solaris 7 オペレーティング環境へのアップグレード、DiskSuite のバージョン 4.2 へのアップグレード、メタデバイス構成の復元について、それぞれの手順が記載されています。Solaris 7 オペレーティング環境には、これらの手順を自動化する Bourne シェルスクリプトが含まれています。

なお DiskSuite 4.2 は、Solaris Easy Access Server 2.0 CD から入手することができます。

ディスククライアントのインストールでサーバー上の dfstab ファイル内の変更が保存されない (バグ ID: 4045544)

ディスククライアントを持つサーバーの Solaris オペレーティング環境をアップグレードするとき、/usr に対する dfstab 行のオプションが保存されません。たとえば、dfstab ファイルに次のように入力したとします。

```
share -F nfs -o rw /export/exec/Solaris_2.7_sparc.all/usr
```

アップグレード時に、このエントリが自動的に次のように置換されてしまいます。

```
share -F nfs -o ro /export/exec/Solaris_2.7_sparc.all/usr
```

回避方法: ディスククライアントまたは Solstice™ AutoClient™ を持つ OS サーバーで Solaris オペレーティング環境をアップグレードする前に、各クライアントの /etc/dfs/dfstab ファイルのバックアップを取っておいてください。

複数のアーキテクチャを持つサーバーにパッチを適用できない (バグ ID:1249343)

複数の SPARC カーネルアーキテクチャのディスククライアントを持つサーバー (たとえば、sun4c、sun4d、sun4m アーキテクチャのディスククライアントを持つ sun4u サーバー) をアップグレードした後、サーバーとはカーネルアーキテクチャが異なるクライアントの SUNWkvm パッケージには、パッチを適用できません。

回避方法: SUNWkvm に関連するパッチを適用する前に、手動ですべての SUNWkvm パッケージを追加してください。

```
# pkgadd -d SUNWkvm.*
```

アップグレードできるシステムがディスク容量不足のためにアップグレードできないと間違っていると判断される (バグ ID:4041733)

アップグレードプログラムは、Solaris ソフトウェアのシステムをアップグレードするために必要な容量よりも 30% 多くの容量を見積もります。したがって、アップグ

ロードできるシステムでも、パッケージの選択を解除したり、容量を増やしたりしないとアップグレードできない場合があります。

回避方法: 手動でファイルシステムのディスク容量を再度割り当ててください。または、「ソフトウェアのカスタマイズ」メニューを選んで、不要なソフトウェアパッケージを削除してください。

Solaris 2.6 ハードウェアリリース 3/98 からのアップグレード後に、sun4m の Solstice AutoClient がキャッシュをマウントできない (バグ ID:4121951)

システムのリブート時に、Solstice AutoClient から次のようなメッセージが出力されます。

```
fsck -F cachefs: Cache directory /.cache/rootcache does not exist.  
mount -F cachefs: cache fsck mount failed  
fsck -F cachefs: Cache directory /.cache/rootcache does not exist.  
mount -F cachefs: cache fsck mount failed
```

/ (ルート) ファイルシステムのファイルシステムの種類が `cachefs` であることが、カーネルに対して通知されています。この問題によって影響を受ける Solstice AutoClient があるかどうかを、システムのアップグレード前に調べるには、サーバー上の `/export/root/<クライアント名>/var/sadm/pkg` ディレクトリ (Solstice AutoClient 上の `/var/sadm/pkg` ディレクトリ) を確認してください。このディレクトリに `TADcar` というサブディレクトリがある場合は、上記の問題によって影響を受ける Solstice AutoClient があります。

回避方法: アップグレード後に、Solstice AutoClient の `/etc/system` ファイル中に次の行を追加してください。

```
rootfs:cachefs
```

Solstice AutoClient 上の `/etc/system` ファイルが、サーバー上に `/export/root/<クライアント名>/etc/system` として格納されます。

ハードウェアに関するバグ情報

kdmconfig: JumpStart インストールが pnp モニターで失敗する (バグ ID:4166376)

プラグ&プレイモニターを使用するように JumpStart インストールを構成している場合、インストールが正しく行われません。インストールされたシステム上のモニター情報が不完全になります。

回避方法 : JumpStart インストールを、周波数が多い同等のモニターを使用するように構成してください。

Solaris 7 インストールの注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)

この節では、日本語環境に固有の次の情報について説明します。

- Solaris Web Start 1.0 インストールに関する情報
- アップグレードに関する情報
- インストール全般に関する情報

Solaris Web Start 1.0 インストールに関する注意事項とバグ情報

この節では、Solaris Web Start 1.0 を使用する場合のインストールに関する、日本語環境に固有の問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris 対話式インストールプログラムを使用するときには発生しません。

システムの最小要件

Solaris Web Start 1.0 を使用するには、システムが次の要件を満たしている必要があります。

- 1.05G バイト以上の容量を持つブートディスク

Solaris Web Start 1.0 を実行するには、1.05G バイト以上のブートディスク (フォーマット済み、ラベル指定済み) が必要です。このディスクをもとにして、プログラムは、選択した製品をインストールするためのディスク容量がシステムにあるかどうかを調べます。サーバーソフトウェアをインストールするには、4.2G バイトのディスクを推奨します。

- 日本語ロケールで 64M バイト以上、英語ロケールで 48M バイト以上の物理メモリー (RAM)

Solaris Web Start 1.0 を、日本語ロケール (日本語表示) で実行するには 64M バイト以上、英語ロケール (英語表示) で実行するには 48M バイト以上の物理メモリーが必要です。

システムがこれらの要件に適合しない場合は、Solaris Web Start 1.0 の代わりに、Solaris 対話式インストールプログラムを使用してください。

なお、英語ロケール (英語表示) で Solaris Web Start 1.0 を実行して日本語環境をインストールするには、以下の手順で行なってください。

1. インストールの始めに表示されるデフォルトロケール画面で英語ロケールを選択します。
2. 各ソフトウェアに対して、インストール言語として日本語ロケールを明示的に指定します。
3. インストールが完了したらシステムを再起動し、システムデフォルトロケールを日本語ロケールに設定します。

日本語の AnswerBook 文書をインストールする場合の注意事項

Solaris 7 Documentation CD や Solaris Easy Access Server 2.0 Documentation CD に含まれている日本語の AnswerBook 文書を、Solaris Web Start 1.0 のカスタムインストールによってインストールする場合、ソフトウェアの選択画面で複数の日本語ロケールが表示されますが、どれか 1 つロケールを選択すれば、各ロケールで共通の日本語 AnswerBook 文書がインストールされます。

メモリー不足により Solaris Web Start 1.0 を継続できない (バグ ID:4062728)

Solaris Web Start 1.0 の使用中に次のいずれかの警告メッセージが表示され、設定操作を継続できなくなる場合があります。

このシステムには Solaris Web Start を実行するために十分なディスク領域がありません。

ディスク容量が不足しているため、選択したすべてのソフトウェアをインストールできません。インストールするソフトウェアの数を減らしてください。

ソフトウェアのインストールに十分なディスク容量があるにもかかわらず、これらのメッセージが表示された場合は、Solaris Web Start 1.0 を実行するためのメモリーが不足している可能性があります。

たとえば、64M バイト以下のメモリーを持つシステムでヘルプの参照や設定操作を何度も繰り返した場合などに、メモリー不足が発生します。

回避方法 : HotJava をメニューから終了し、Solaris Web Start 1.0 を再起動してください (ブラウザ画面左上にあるボタンメニューから「終了」を選択し、次に表示されるポップアップ画面で「継続」を選択します)。

それでも同じ状況になってしまう場合には、対話式インストールを行うか (Solaris Web Start 1.0 の初期画面で「終了」ボタンを選択します)、英語表示で Solaris Web Start 1.0 を実行してください。

スワップ不足によって **Solaris Web Start 1.0** が同梱のソフトウェアのインストールに失敗する (バグ ID:4177538)

同梱されている CD を Solaris Web Start 1.0 でインストール中にスワップ不足が発生し、コンソールに次のエラーメッセージが繰り返し表示されて、インストールに失敗することがあります。また、このエラーメッセージが文字化けすることがあります。

```
MYRun Error:java.io.IOException: not enough disk space
```

これは、64M バイト以下の物理メモリーのシステムに、同梱の多くのソフトウェアをインストールする場合に発生します。

回避方法 : 以下のいずれかの方法で対処してください。

■ 回避方法 1

1. 端末エミュレータなどで reboot コマンドを実行してシステムをリブートします。

システムがリブートすると、Solaris Web Start 1.0 がリブート前の状態で起動されます。

2. 「再開」ボタンをクリックして、インストールを続行します。

リブート前にインストールが完了したソフトウェアについて、インストールが失敗したように Solaris Web Start 1.0 の画面に表示されることがありますが、インストールは完了していますので問題ありません。

■ 回避方法 2

Solaris Web Start 1.0 のカスタムインストールでインストールを最初からやり直してください。その際に、物理メモリーとスワップ領域の合計サイズが SPARC システムの場合は最低 224M バイト、Intel システムの場合は最低 256M バイトになるように、スワップ領域のサイズを確保してください。

Solaris Easy Access Server 2.0 Documentation CD に含まれている「Release Notes」中の各ドキュメントがインストールされない (バグ ID:4177894)

Solaris Web Start 1.0 では、Solaris Easy Access Server 2.0 Documentation CD に含まれている「Release Notes」中のドキュメントをインストールすることができません。

回避方法 : Solaris Easy Access Server 2.0 Documentation CD に含まれている Solaris Web Start 2.0 (installer) を使用して、必要なドキュメントをカスタムインストールでインストールしてください。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

アップグレードに関する、日本語環境に固有の問題について説明します。

Solaris 7 アップグレードインストールのサポート範囲

Solaris 7 をアップグレードオプションによってインストールする場合、Solaris 2.5 以降のシステムからのアップグレードをサポートします。それより前のリリースからのアップグレードは保証されません。

アップグレードでのロケールサポート

アップグレード時に新たなロケールサポートを追加できます。その場合「言語の選択」画面で追加したいロケールを追加選択します。

なお、現在インストールされているロケールをアップグレード時に削除することはできません。また、現在インストールされているロケールとは異なるロケールへアップグレードすることはできません。たとえば、ja ロケールだけをインストールしたシステムを ja_JP.PCK ロケールだけのシステムにアップグレードすることはできません。

「日本語 Solaris 2.5.1 PC 漢字コード開発キット」が入ったシステムからのアップグレード

Solaris 2.5.1 に同梱されていた「日本語 Solaris 2.5.1 PC 漢字コード開発キット」がインストールされているシステムを Solaris 7 にアップグレードする場合、それをサポートするパッケージ (SUNWjpr、SUNWjpu、SUNWjpxw) は自動的に削除されます。ja_JP.PCK ロケール環境をインストールするには、「言語の選択」画面で「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」を追加選択してください。

アップグレードで、swap パーティションがなくなる場合がある (バグ ID:4065574)

ディスク領域再配置機能 (DSR: Disk Space Reallocation) を使用してアップグレードを行うと、swap パーティションがなくなる場合があります。

回避方法: アップグレードが終了した後、スワップファイルを作成し、スワップ領域を追加してください。詳細は swap (1M) のマニュアルページを参照してください。

インストール全般に関する注意事項とバグ情報

日本語環境に固有のインストールに関する注意事項について説明します。

Solaris 2.5.1 システム上への Netscape Communicator 4.05 のインストール

Solaris 2.5.1 オペレーティング環境のシステム上に Solaris Web Start 2.0 インストールプログラム (installer) を使用して、Netscape Communicator 4.05 をインストールす

る場合には、必ず /cdrom/ja_netscape/Patches/i386/Sol_2.5.1 に含まれる 3つのパッチをインストールしてから、Solaris Web Start 2.0 を実行してください。

また、Solaris 2.5.1 システム上にインストールしたパッケージを削除するには、pkgrm コマンドを使用してください。

Solaris 7 でサポートされる日本語入力システムとその切替方法

Wnn6、ATOK8、cs00 が日本語入力システムとして利用できます。これらは Solaris 7 Software CD に含まれており、「エンドユーザシステムサポート」以上のソフトウェアグループでデフォルトでインストールされます。

環境ファイルを特に設定していない場合のデフォルトの日本語入力システムは、Wnn6 です。Wnn6 がインストールされていない場合は、ATOK8 がデフォルトとなります。

現在使用している日本語入力システムを他の入力システムに切り替える場合は、ワークスペースメニュー (OpenWindows 環境の場合は「ワークスペース」→「ユーティリティ」) の「日本語入力システムの切替」から利用したい日本語入力システムを選択し、ウィンドウシステムを再起動してください。また、直接コマンド行から wnn6setup、atok8setup、または cs00setup と入力して、設定を切り替えることもできます。この場合もウィンドウシステムを再起動してください。

使用しない日本語入力システムをインストールしない方法

使用しない入力システムは、インストール時に「ソフトウェアのカスタマイズ」画面でそのクラスタ (またはパッケージ) の選択を解除することによって、インストールしないようにできます。たとえば、cs00 を使用しない場合は「Japanese Input System - cs00」の選択を解除します。

ただし、アップグレードインストールの場合に、これまで使用していた ATOK8 または cs00 の選択を解除すると、システム上からその入力システムをサポートするシステムファイルも削除されてしまいます。このため、単語を追加登録したシステム辞書などの保存しておきたいファイルがある場合は、アップグレード前にファイルを保存するか、あるいはアップグレードインストール時に、使用しない日本語入力システムを含めてインストールし、アップグレードインストール後に必要なファイルを保存した後に、pkgrm コマンドでそのパッケージを削除してください。

cs00 に関するインストール時の注意事項

Solaris 2.6 から、cs00 は「コアシステムサポート」ソフトウェアグループには含まれなくなりました。Solaris 2.5.1 以前の「コアシステムサポート」でインストールされたシステムをアップグレードすると、システム上から cs00 をサポートするシステムファイルが削除されますので注意してください。

cs00 を利用する場合は、「エンドユーザシステムサポート」以上のソフトウェアグループを選択するか、インストール時に「Japanese Input System - cs00」クラスタを追加選択するか、インストール後に pkgadd コマンドにより次のパッケージをインストールしてください。

- SUNWjc0r : Japanese Kana-Kanji Conversion Server cs00 Root File
- SUNWjc0u : Japanese Kana-Kanji Conversion Server cs00 User Files
- SUNWjc0w : Japanese cs00 user dictionary maintenance tool for OPEN LOOK
- SUNWjc0d : Japanese cs00 user dictionary maintenance tool for CDE Motif

なお、かな漢字入力機能を持たない漢字表示可能な端末および端末エミュレータ上で日本語を入力するためのフロントエンドプロセッサ m1e を利用する際にも、cs00 が必要になります。

日本語 106/109 キーボードに関する注意事項

Solaris 7 のデフォルトのキーボードは US-English タイプになっているため、構成用補助ブートフロッピーディスクの「Identified Devices」画面で以下のように表示されます。

```
ISA: System keyboard (US-English)
```

日本語 106/109 キーボードを使用している場合は、F4-Device Tasks を選択し、「Set Keyboard Configuration」で「Japanese (106)」を選んでください。このとき、次のような指示が表示されます。F2-Continue を押して「101 形式」を選んでください。

```
To select the Windows 104-key keyboard format,  
choose Continue.
```

```
To select the default 101-key keyboard format,  
choose Cancel.
```

設定後は、「Identified Device」画面で次のように表示されます。

ISA: System keyboard (Japanese(106))

注・日本語 109 キーボードで追加された Windows キーは Solaris 7 では使用できません。日本語 109 キーボード上では、日本語 106 キーボードと同じ機能が利用可能です。

ブート時に周辺デバイスの設定不備を告げるメッセージが表示される

日本語 106/109 キーボードを使用しているシステムの場合、Configuration Assistant で「Japanese (106)」を選択しないでインストールを行うと、Solaris のブート時に、周辺デバイスの設定不備の可能性を示す次のメッセージが表示されます。

The peripheral device configuration may be incomplete or incorrect...

この場合、Japanese (106) として設定し直してください。次回のブート以降はこのメッセージは表示されなくなります。

日本語キーボード入力

Solaris 7 をインストールする前に日本語 106 キーボードを利用すると、一部キーボード上の印字と実際の入力が異なります。次の表を参照してください。

表 3-1 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

OADG 規格の日本語キーボード上の印字	実際の入力文字
“	@
&	^
'	&
(*
)	(
Shift-0)
=	-
~	+
^	=
¥	割り当てなし

表 3-1 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字 続く

OADG 規格の日本語キーボード上の印字	実際の入力文字
	割り当てなし
@	[
'	{
[]
{	}
+	:
:	'
*	"
]	\
}	
-	割り当てなし
\	割り当てなし
半角 / 全角	~
Shift-半角 / 全角	'

スワップ不足によって Solaris Web Start 2.0 インストールが失敗する (バグ ID:4166394)

同梱されている CD をその CD に含まれている Solaris Web Start 2.0 (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしている時に、スワップ容量が不足したためにインストールが失敗することがあります。この場合、コンソールにエラーメッセージが表示されますが、そのエラーメッセージが次のように文字化けします。

```
RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????
```

回避方法: 同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.0 は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.0 を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、あるいは

はスワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は `swap(1M)` のマニュアルページを参照してください。

デフォルトロケールに関係なくインストールログが **EUC** テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、`install_log`、`upgrade_log` などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されてしまいます。なお、同梱のソフトウェアを Solaris Web Start でインストールした場合に生成されるログファイル `bundled_install_log` は、デフォルトロケールで選択した文字エンコーディングのテキストで生成されます。

回避方法: コードコンバータで変換して参照するか、たとえばテキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `runtime_bugs` ファイルを作成後に明らかになった、実行時のバグ情報と注意事項について説明します。オンラインリリース情報については、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

Solaris 全般に関する情報と、日本語環境に固有の情報とを分けて説明しています。39ページの「Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報」には、Solaris 7 全般に関する情報が記載されています。46ページの「Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)」には、日本語環境に固有の情報のみが記載されています。

注 - この章に記載されている情報は、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `runtime_bugs` ファイルの内容を補足するものです。

Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報

この節では、Solaris 7 実行時の注意事項およびバグ情報について説明します。

Solaris CDE に関する注意事項とバグ情報

西暦 2000 年以降への日時変更

Solaris 7 および CDE は、西暦 2000 年に対応しています。システムの日時を変更するには、date コマンドを使用します。テストなどの目的で、システムの日時を 2000 年以降に変更する場合は、システムをいったん停止するかまたはシングルユーザーモードにシャットダウンした後、シングルユーザーモードで date コマンドを使用してください。日時の変更後は、システムをブートしてマルチユーザーモードで使用することができます。

IMAP サーバー側のメールボックスがファイルリストに表示されない (バグ ID:4140578)

メールボックス選択ダイアログで、ラジオボタンを「IMAP サーバ」に切り替えて「更新」ボタンをクリックしても、ファイルリスト中に IMAP サーバー側のメールボックス名が表示されずに、ローカルのメールボックス名が表示されます。

回避方法: ファイルリストには表示されませんが、メールボックス名を入力すれば、IMAP サーバー側のメールボックスにアクセスできます。

メールボックス名の変更、メールボックスの削除ができない (バグ ID:4172448)

「メールボックス」メニューから「メールボックス名の変更」および「メールボックスの削除」を実行しても、次のようなエラーメッセージが表示されて処理が正しく行われません。

```
メールプログラムはメールボックス **** の名前を変更できません。
```

```
メールプログラムはメールボックス **** を削除できません。
```

回避方法: 以下のようにして、コマンド行から直接メールボックスの削除またはメールボックス名の変更を行なってください。

- メールボックス名を変更する場合

```
% /usr/bin/mv <既存のメールボックス名> <新しいメールボックス名>
```

- メールボックスを削除する場合

```
% /usr/bin/rm <既存のメールボックス名>
```

セキュリティに関するバグ情報

ufsdump および ufsrestore におけるセキュリティが不完全 (バグ ID:4132365)

ufsdump(1M) および ufsrestore(1M) コマンドにおけるセキュリティが十分でないことがあります。このセキュリティ上の不備によって、すでにアクセスしたことがある Solaris システムには root としてアクセスすることができます。この問題を修正するために、次のパッチが提供されています。

- パッチ ID: 106793-01 (SPARC システム用)
- パッチ ID: 106794-01 (x86 システム用)

上記のパッチを適用していない場合は、次の方法でも上記のセキュリティ上の問題を回避することができます。

回避方法: chmod コマンドを使用して ufsdump および ufsrestore プログラムの set-uid ビットを削除すると、これらのプログラムのセキュリティ機能が修正されます。root になって次のようにコマンドを実行してください。

```
# chmod 0555 /usr/lib/fs/ufs/ufsdump /usr/lib/fs/ufs/ufsrestore
```

ufsdump および ufsrestore のいくつかの機能 (rmt(1M) プロトコルを使用しているネットワーク上のバックアップデバイスにアクセスするなど) について、root ユーザーだけが使用できるようになります。

AnswerBook2 に関するバグ情報

root になっている場合、**CDE** のフロントパネルから **AnswerBook2** を選択しても **Netscape Communicator** が起動されない (バグ ID:4176729)

Netscape Communicator 4.05 をインストールしたシステムに root でログインしている場合、CDE のフロントパネルで AnswerBook2 を選択しても Netscape Communicator が起動されません。

回避方法 : コマンド行で以下のように入力してから、AnswerBook2 を起動してください。

```
# xhost +
```

c 以外のロケールに関するバグ情報

c ロケール以外のロケールに関するバグ情報と注意事項について説明します。

アラビア語またはヘブライ語のロケールにおいて、**admintool** を使用してユーザーを追加または変更できない (バグ ID:4159527)

root としてアラビア語またはヘブライ語のロケールでログインした場合、**admintool** を使ってユーザーを追加または変更することができません。空白の「Add User」ウィンドウが表示されます。ユーザー情報を追加または変更するためのすべてのサブウィンドウでも、同様の問題が発生します。

回避方法 : 他のロケールでログインして、ユーザー情報を追加または変更してください。

Custom Arabic TrueType フォントを使用すると **Intel XServer** がクラッシュする (バグ ID:4161002)

アプリケーションがシステムフォントではなくカスタムフォントを使用している場合、x86 プラットフォームでは XServer がクラッシュすることがあります。この問題は、いくつかの文字において、そのフォントで可能な文字の高さを超えているために発生します。

回避方法 : そのカスタムフォントの文字の高さを低く設定してください。

アラビア語の 16 ビットプロポーションナルフォントの一部が切れてしまう (バグ ID:4167851)

Solaris 7 オペレーティング環境でアラビア語の 16 ビットプロポーションナルフォントを使用すると、スクリーン上で文字の一部が切れて表示されます。

回避方法: モノスペースフォントを使用してください。

複雑なテキストレイアウト (CTL) の言語でデスクトップ上の静的なテキストが正しく表示されない (バグ ID:4170194)

静的なテキスト (アイコンのテキストやワークスペースパネルのテキストなど) が、複雑なテキストレイアウト (CTL、Complex Layout Text) の言語では正しく表示されません。このため、英語の静的なテキストをアラビア語やヘブライ語に翻訳した場合、それらのテキストが正しく表示されません。

デスクトップとして **OpenWindows** を利用できないロケールがある

以下のロケールでは、デスクトップオプションとして **OpenWindows** を利用できません。

表 4-1 OpenWindows がサポートされていないロケール

ロケール	使用国名
en_GB.ISO8859-15	イギリス
de.ISO8859-15	ドイツ
fr.ISO8859-15	フランス
it.ISO8859-15	イタリア
es.ISO8859-15	スペイン
sv.ISO8859-15	スウェーデン
da.ISO8859-15	デンマーク

表 4-1 OpenWindows がサポートされていないロケール 続く

ロケール	使用国名
de_AT.ISO8859-15	オーストリア
en_IE.ISO8859-15	アイルランド
pt.ISO8859-15	ポルトガル
nl_BE.ISO8859-15	ベルギー
nl.ISO8859-15	オランダ
fr_BE.ISO8859-15	ベルギー
fi.ISO8859-15	フィンランド
el_EURO	ギリシャ
th	タイ
th_TH	タイ
he	イスラエル
ar	エジプト
de.UTF-8	ドイツ
fr.UTF-8	フランス
it.UTF-8	イタリア
es.UTF-8	スペイン
sv.UTF-8	スウェーデン
en_EU.UTF-8	ヨーロッパ
ja_JP.UTF-8	日本

表 4-1 OpenWindows がサポートされていないロケール 続く

ロケール	使用国名
ja_JP.PCK	日本
ko.UTF-8	韓国
zh.GBK	中国
zh_TW.BIG5	台湾

ハードウェアに関するバグ情報

ncr: Intel N440BX のマザーボードにおいて、SCSI 処理が Wide と Narrow とで適合しない (バグ ID:4165916)

Wide SCSI (Small Computer System Interface) ターゲットが Symbios アダプタに接続されている場合に、ブートデバイスがそれらの Wide SCSI ターゲットのうちのいずれでもない場合、Solaris ドライバは Wide SCSI データ転送とうまくネゴシエーションを行うことができないので、デバイスが正常に動作しません。

回避方法: Symbios BIOS 構成ユーティリティを使用して、アダプタのファームウェアを 8 ビットの Narrow モードに設定してください。

- ブートプロンプトが表示されたときに、CTRL-C を押して Symbios 構成ユーティリティに入ります。
- 「Main」メニューから、Wide ターゲットに接続されているアダプタを選択します。
- 「Utilities」メニューから「Device Selection」を選択してください。デバイスを選択して「Width」(ビット単位)を 8 に設定します。

このように設定しても、Solaris ドライバは、アダプタとデバイスの双方で共通して利用できる最も速い転送モードを使用するように調整するので、パフォーマンス上の損失は発生しません。

Solaris 7 実行時の注意事項とバグ情報 (日本語環境固有)

この節では、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の runtime_bugs ファイルを作成後に明らかになった、日本語環境における実行時の注意事項とバグ情報について説明します。

Solaris CDE に関するバグ情報

ja_JP.UTF-8 ロケールで、メールプログラムを使用中にオプションダイアログを開くと、メールプログラムがコアダンプする (バグ ID: 4162284)

ja_JP.UTF-8 ロケールでメールプログラムを使用する場合、オプションダイアログを開こうとすると、メールプログラムがコアダンプすることがあります。

日本語 OpenWindows に関するバグ情報

メールツール : dtmail から送られた日本語テキストの_attachments を表示できない (バグ ID:4071688)

dtmail から通常の形式 (Internet MIME 形式) で送られたメールに日本語文字列を含む attachments が含まれる場合、その attachments をメールツール上で表示させることができません。

回避方法 : 次のいずれかの手順にしてください。

- 送信者に Sun Mail Tool 形式で再度メールを送信してもらってください。
- attachments をファイルに保存し、jistoeuc(1) または iconv(1) コマンドを使用してコード変換を行ってください。

jistoeuc(1) コマンドを使用する場合:

```
% /usr/bin/jistoeuc <保存したファイル名>
```

iconv(1) コマンドを使用する場合:

```
% /usr/bin/iconv -f ISO-2022-JP -t eucJP <保存したファイル名>
```

日本語 OpenWindows 上でメニューから AnswerBook2 を起動できない (バグ ID:4177882)

日本語 OpenWindows 上で「ワークスペース」メニューから AnswerBook2 を選択しても、ブラウザが起動しません。

回避方法: 次のいずれかの手順にしたがってください。

- コマンド行から直接 AnswerBook 2 を起動してください。

```
% /usr/dt/bin/answerbook2
```

- 次の手順でリンクを作成してください。
 1. /usr/dt/bin ディレクトリに移動します。
 2. スーパーユーザーになって、以下のようにリンクを作成します。

```
# ln -s answerbook2 sdt_answerbook2
```

日本語ロケール・日本語入力に関する注意事項とバグ情報

PCK/UTF-8 ロケールに関する注意事項

ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールは、ja (EUC) ロケールとほぼ同等な機能をサポートしていますが、OpenWindows 環境 (XView、OLIT) をサポートしていないなどのいくつかの制限事項があります。

Wnn6 の同時接続クライアント数

今回のリリースで提供される Wnn6 は、最大 3 つまでのクライアント (htt や uum など、Wnn6 のかな漢字変換サーバーである jserver に直接接続するプログラム) の同時接続をサポートします。

追加のクライアントライセンスは、別途購入することができます。詳細は、本製品のご購入先にお問い合わせください。

ATOK8 を Solaris CDE 上で使う際、カーソルキーを使用すると入力が反映されないことがある

ATOK8 を Solaris CDE 上で使う際、独立したカーソルキー (→、←、↑、↓) を使用すると、カーソルキー入力の一部が脱落して ATOK8 の変換操作に反映されないことがあります。

回避方法 1: テンキー上のカーソルキーを使用してください。

回避方法 2: テキストエディタなどで、dtwmrc (\$HOME/.dt/dtwmrc) の 198 行目以下に記述されている Key Bindings Description の Root のカーソルキーに関するエントリを、次のように "#" でコメントアウトして、ワークスペースマネージャ (dtwm) を再起動するか、ログインし直してください。

```
# Down    root    f.circle_down
# Up      root    f.circle_up
# Right   root    f.next_workspace
# Left    root    f.prev_workspace
```

注 - この設定をした場合、独立したカーソルキーで上記の dtwm の機能は利用できなくなります。

Wnn6/Htt で学習をしないように設定している場合、Wnn6/Htt が正常に起動しないことがある (バグ ID: 4175003)

ユーザーが Wnn6/Htt で学習をしないように設定し、その後ユーザーの学習辞書などが削除された場合 (たとえばシステムの再インストールを行なった場合)、Wnn6/Htt が正常に起動せず、日本語入力を行えなくなることがあります。

回避方法: Wnn6 設定ユーティリティで学習に関する設定を初期状態に戻してログインし直すか、Wnn6/Htt を再起動してください。その後、必要であれば学習に関する設定を行なってください。

Solaris 外字ツール (sdtudctool) に関するバグ情報

ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールで jpostprint を利用してユーザー定義文字を印刷すると、印刷未登録文字を表す □ が印刷されてしまう (バグ ID:4177471)

回避方法: 次のいずれかの手順にしたがってください。

- ja から ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 にシンボリックリンクを張ってください。

```
% mkdir -p ~/.Xlocale/ja_JP.PCK/fonts ~/.Xlocale/ja_JP.UTF-8/fonts
% cd ~/.Xlocale/ja_JP.PCK/fonts
% ln -s ../../ja/fonts/UDC .
% cd ~/.Xlocale/ja_JP.UTF-8/fonts
% ln -s ../../ja/fonts/UDC .
```

- jpostprint の -u オプションで、ユーザー定義文字の保存ディレクトリを指定してください。

```
% jpostprint -u ~/.Xlocale/ja/fonts/UDC/Type1/UDC%d.pfa
```

ユーザー定義文字を読み込み、その一覧表を印刷した後に別のフォントファイルを読み込むと、コアダンプすることがある (バグ ID:4176705)

回避方法: ユーザー定義文字の一覧表を印刷後に他のフォントファイルを読み込む場合は、sdtudctool を再起動してください。

インストールされているフォントを指定しても、参照表に表示できないフォントがある (バグ ID:4162315)

回避方法: いったんフォントサイズを 14 に変更して表示してから、希望のサイズに変更してください。

アウトラインモードの編集で参照画面からコピーなどを行うと、ビットマップイメージが太くなる (バグ ID:4176763)

回避方法: ありません。

24 ビットカラーを利用している環境では、参照画面上にイメージが正しく表示されない (バグ ID:4171690)

回避方法 : 8 ビットカラーを使用してください。

Solaris 2.6 で作成したユーザー定義文字ファイルが存在する場合、Solaris 7 で Solaris 外字ツールを起動できない (バグ ID:4178971)

Solaris 2.6 で作成したユーザー定義文字ファイルが存在する場合、Solaris 7 で Solaris 外字ツール `sdtudctool` を起動すると次のメッセージが表示され、「了解」ボタンをクリックすると外字ツールが終了してしまいます。

```
Can't migrate, because the number of bitmap or outline font files are invalid.
```

回避方法 : 以下の手順を実行してください。

1. 既存のユーザー定義文字保存ディレクトリを、別ディレクトリに待避します。

```
% cd ~/.Xlocale/ja/fonts
% mv UDC UDC-
```

2. ログアウトし、再びログインします。
3. Solaris 外字ツールを起動します。

```
% sdtudctool
```

4. ダミーのユーザー定義文字を 1 文字登録して保存し、外字ツールを終了します。
5. 待避したディレクトリにある既存のユーザー定義文字フォントファイルを、新たにできたユーザー定義文字フォントファイルのディレクトリへコピーします。

```
% cd ~/.Xlocale/ja/fonts/UDC/Bitmaps
% cp ../../UDC-/Bitmaps/*.pcf .
% cd ~/.Xlocale/ja/fonts/UDC/Type1
% cp ../../UDC-/Type1/*.pfa .
```

ja 以外の日本語ロケールでユーザー定義文字を辞書に登録できない (バグ ID:4178952)

本来は sdtudctool の「ファイル」メニューから「辞書登録ツール...」を選択すると、sdtudc_register(1) が起動されてユーザー定義文字を辞書に登録することができますが、ja 以外の日本語ロケールではこの操作を行っても辞書登録が正しく行われません。

回避方法: ja ロケールで sdtudctool を起動して、辞書登録を行なってください。

コード体系が PCK の場合、一覧表の 11 ページ以降のコードポイントが正しくない (バグ ID:4178964)

一覧表の「表示」メニューの「コード」を PCK に切り換えた場合、11 ページ以降のコードポイントが正しく表示されません。

	一覧表での表示	正しいコードポイント
11 ページの最初のコードポイント	0xf040	0xf540
20 ページの最後のコードポイント	0xf4fc	0xf9fc

AnswerBook2 使用時の注意事項

HotJava は、処理によってはパフォーマンスが若干遅い場合があります。このため、結果が多く出ることが予想される検索を AnswerBook2 で行う場合は、HotJava よりも Netscape を利用して AnswerBook2 を参照することをお勧めします。

Netscape Communicator 4.05 に関する注意事項とバグ情報

Netscape Communicator のウィンドウタイトルが表示されないまたは文字化けする (バグ ID:4177944)

Netscape Communicator 4.05 は、どの日本語ロケールでログインしても、ja ロケールで起動され実行されます。LANG 環境変数を切り替えて起動する必要はありません。

ただし、ja ロケール以外の日本語ロケール (ja_JP.PCK または ja_JP.UTF-8) でログインして Netscape Communicator 4.05 を使用した場合、ウィンドウのタイトルが文字化けを起こしたり、表示されないことがあります。

機能に関する情報

この章では、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「新規機能の概要」、および Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の `new_features` ファイルの内容を補足する、機能に関する情報を説明しています。オンラインリリース情報については、17ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

Solaris の名称変更

Solaris の今回のリリースは、「Solaris 2.7」ではなく「Solaris 7」という名称になりました。新しい Solaris 製品が増えていく中で、ユーザーにとって Solaris リリースの名称をよりわかりやすくすることを目的として、この名称変更が行われました。

Solaris 7 では、この名称変更の過渡期にあるため、ソフトウェアおよびマニュアルの中に「Solaris 2.7」または「Solaris 2.x」という名称が使用されている箇所があります。

中心となっているオペレーティングシステムの名称は、従来どおり変更されていません。今回のリリースにおいて中心部分を構成しているオペレーティングシステムの名称は「SunOS 5.7」です。

通貨「ユーロ」のサポート

単位を扱うプログラムに、新しいヨーロッパ通貨「ユーロ」のサポートが追加され、ユーロ通貨の記号を入力、表示、印刷できるようになりました。また、ユーロ通貨の価格表記の書式もサポートされています。

ただし、ユーロ通貨とその他の国の通貨との間のレート換算はサポートされていません。これは、アプリケーション側で処理されます。

アラビア語およびヘブライ語のサポート

Solaris 7 オペレーティングシステムでは、複雑なテキストレイアウト (CTL: Complex Text Layout) 言語の一部としてアラビア語およびヘブライ語がサポートされています。CTL サポートには、この他にたとえばタイ語も含まれています。アラビア文字およびヘブライ文字の言語機能、入力方法、印刷方法など、サポートされている主な機能について説明します。

アラビア語およびヘブライ語の次の機能がサポートされています。

■ 言語機能

- 双方向テキスト
- 文字の形成
- 合字 (2 つ以上の文字を 1 つの文字にしたもの)
- 発音区別符号および分音符号
- 左右対称交換
- 英語およびヒンディ語の数詞

■ カーソルの分割

カーソルの分割 (2 つのカーソル) が、新機能として追加されました。これによって、テキストの挿入位置がヘブライ語と英語のテキストの境界にあるときに発生するあいまいさが解消されます。

■ 入力

各デスクトップアプリケーションのウィンドウの下部に、入力ウィンドウが表示されます。入力ウィンドウは最初は英語で表示されます。アラビア語またはヘブ

ライ語の入力モードに切り替えるには、Control—T キーを押してください。入力ウィンドウがアラビア語またはヘブライ語で表示され、アラビア語またはヘブライ語のテキストを入力できるようになります。

- 印刷

CTL 言語で記述された文書の印刷について説明しているマニュアルページ `ctlmp` が新しく追加されました。このマニュアルページを表示するにはコマンド行で `man ctlmp` と入力してください。

3.3V のサポート

PCMCIA インタフェース用の `pcic nexus` ドライバは、3.3V をサポートしません。3.3V 専用のカードは正常に動作せず、システムをハングさせることがあります。この問題にはいくつかの原因が関係しています。

- `pcic` ドライバは、カードが 3.3V 専用であることを認識しない (バスブリッジからこの情報を読み取り、5V に設定しないようにする必要がある)。
- `pcic` ドライバは、インタフェースに 3.3V を使用するよう指定しない。

最近の PC カードには、3.3V でしか使用できないものがあります。今までサポートされていた PC ATA や SRAM などのデバイスにも、3.3V でしか使用できない種類のものがあります。TI PCI1130/1131 などの新しいバスブリッジは、3.3V と 5V の両方をサポートしています。

製品の中止情報

この章では、製品の中止情報について説明します。この章に記載されている情報は、Solaris 7 Software CD に含まれている『Solaris 7 オンラインリリース情報』の eof ファイルの内容を補足するものです。オンラインリリース情報については、17 ページの「オンラインリリース情報」を参照してください。

Solaris に含まれなくなる予定のソフトウェア

将来のリリースで Solaris に同梱されなくなる予定のソフトウェアについて説明します。

HotJava ブラウザ

将来の Solaris リリースには、HotJava ブラウザが含まれなくなる予定です。ただしこの予定は変更される可能性があります。

マニュアルに関する情報

この章では、マニュアル中のバグなど、マニュアルに関する最新情報について説明します。

マニュアル中のバグ情報

この節では、マニュアル中のバグ情報について説明します。

Solaris 7 サーバー上で SunOS 4.x をサポートするための SUNWhinst

対象マニュアル: 『Solaris 移行ガイド』

「SunOS 4.x をサポートする機能を Solaris 7 サーバへ追加する」で説明されているように、SunOS 4.x ディスクレスクライアントをサポートするように構成されている Solaris 7 サーバーには、SUNWhinst パッケージをインストールする必要があります。SUNWhinst パッケージは、Solaris Easy Access Server 2.0 Software CD の AdminSuite_2.3+AutoClient_2.1/4.x ディレクトリにあります。

ユーロ通貨のサポート

対象マニュアル: 『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』

「言語サポート」の節に、ユーロ通貨をサポートするロケールは 16 個あると記述されていますが、実際は「ユーロ通貨をサポートする新しいユーザーロケール」に記載されているように、15 個のロケールがユーロ通貨用にサポートされています。

x86 システム用のドライバ

対象マニュアル: 『Solaris 7 デバイスの構成 (Intel 版)』 (Solaris 7 インストール Collection)

- 「はじめに」: Intel 8086 マイクロプロセッサチップのリストに、Pentium Xeon を追加してください。
- 「デバイス参照情報ページ」: 「IBM PC ServeRAID SCSI ホストバスアダプタ」に IBM PC ServeRAID II Ultra SCSI HBA を追加してください。

SunOS 5.7 のマニュアルページ ncrs (7D)

対象マニュアルページ: ncrs (7D)

SunOS 5.7 のマニュアルページ ncrs (7D) に記載されている情報が最新ではありません。最新の説明は次のとおりです。なお、最新の情報が記載されているマニュアルページは、<http://www.sun.com/developers/driver> の「Device Driver site」を参照してください。

ncrs ホストバスアダプタドライバは SCSI 準拠のドライバで、SCSI チップの Symbios 53c810、53c815、53c820、53c825、53c860、53c875、53c895 をサポートしています。キューのタグ付けやタグ解除、Wide/Fast/Ultra の各 SCSI モード、自動要求の検知など、SCSI インタフェースの標準機能をサポートしています。ただし、リンクされたコマンドはサポートしていません。

ncrs ドライバを構成するには、ncrs.conf にプロパティを定義します。ここに設定されたプロパティは、大域的な SCSI 設定よりも優先され、ncrs によってサポートされます。このプロパティには、-scsi-options、-target-scsi-options、-scsi-reset-delay、-scsi-tag-age-limit、-scsi-watchdog-tick、-scsi-initiator-id などがあり、ユーザーが変更することができます。

`n-target-scsi-options` はターゲットに対する `-scsi-options` プロパティの値よりも優先されます。`n` の値は 0 から 15 の十進数です。ncrs は、次の SCSI オプションをサポートしています。

- `-SCSI_OPTIONS_DR(0x8)`

- `-SCSI_OPTIONS_SYNC` (0x20)
- `-SCSI_OPTIONS_TAG` (0x80)
- `-SCSI_OPTIONS_FAST` (0x100)
- `-SCSI_OPTIONS_WIDE` (0x200)
- `-SCSI_OPTIONS_FAST20` (0x400)

`-scsi-watchdog-tick` の後、`ncrs` ドライバは現在のコマンドおよび切断されているコマンドのすべてについて、非活動タイムアウト時間を超えているものがないかどうかを検査します。

`-scsi-tag-age-limit` は、`ncrs` ドライバがすべてのタグ ID を一巡した後に現在使用されている特定のタグ ID を割り当てようとする回数です。同じタグ ID が `-scsi-tag-age-limit` 回使用された後は、すべてのコマンドが完了またはタイムアウトになるまで、このターゲットに対してコマンドは発行されません。

注 - `ncrs` ハードウェア (53c895/53c875) は、Wide、Fast、Ultra の SCSI モードをサポートします。最大 SCSI 帯域幅は 40 MB/秒 です。

Ultra™ SCSI は、デフォルトでは無効になっています。これを有効にするには、`ncrs.conf` ファイルを編集して `scsi-options` プロパティを `0x1ff8` に設定してください。

Solaris 7 リファレンスマニュアル (AnswerBook2) のリンク

対象マニュアル : Solaris 7 Documentation CD (日本語版) に含まれている「Solaris 7 リファレンスマニュアル Collection」中の、各 Sun OS リファレンスマニュアルおよび各 JFP リファレンスマニュアル

上記のリファレンスマニュアル中に含まれている参照先マニュアル (「Solaris 7 リファレンスマニュアル Collection」以外のマニュアル) のリンクをクリックしても、空白のページが表示されたり、英語版のマニュアルが表示されることがあります (バグ ID:4180153)。

回避方法 : ページの上部にある「ライブラリ」のアイコンをクリックして「個人ライブラリ」のページを表示し、参照したいマニュアルのタイトルをクリックしてください。